

ISS チャレンジ 研究実施計画書の評価

自己の研究実施計画書を以下のルーブリックに従って評価し、振り返りましょう。

【観点A：研究の目的】 評価対象：「研究の動機・背景」「研究の目的」

0	以下のどれにもあてはまらない
1	研究の目的が不明確である。
2	研究の目的が明確に示されている。
3	研究の動機や背景に基づいて、研究の目的が明確に示されている。

【観点B：先行研究】 評価対象：「研究の動機・背景」「研究の方法・内容と年間計画」

0	以下のどれにもあてはまらない
1	先行研究は踏まえている(踏まえようとしている)が、情報源の信頼性に欠けるものが多くみられる。
2	適切な先行研究を踏まえている(踏まえようとしている)。
3	適切な先行研究を十分に踏まえており(踏まえようとしており)、自己の研究の位置付けを明確にしている(明確にすることができそうである)。

【観点C：研究方法の妥当性】 評価対象：「研究方法の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない
1	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、非論理的である。または、方法が不適切であると判断することができる。調べ学習で終始してしまう可能性が大きい。
2	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、その論理に飛躍があったり、論理を追うことが困難である所が散見される。
3	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを論理的に説明している。

【観点D：実現可能性】 評価対象：「研究方法の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない
1	1年間で研究目的を達成できる可能性が低い研究であると判断することができる。
2	概ね1年間で研究目的を達成できる可能性がある研究であると判断することができる。
3	1年間で研究目的を達成できる可能性が非常に高い研究であると判断することができる。

《生徒による自己評価》

観点A	観点B	観点C	観点D

《教員による評価》

観点A	観点B	観点C	観点D

本研究のPR